

## 29) 大腸結節集簇様病変に対する内視鏡的治療

齋藤	征史・松村	修志	
船越	和博・秋山	修弘	(県立がんセンター)
加藤	俊幸・小越	和栄	新潟病院内科
筒井	光廣・佐々木	壽英	(同 外科)
本間	慶一・根本	啓一	(同 病理)

20 mm 以上の大腸結節集簇様病変の治療法について検討した。症例は内視鏡摘除単独：14例，16病変，内視鏡的摘除＋ヒータープローブ療法：2例，2病変，内視

鏡的摘除＋手術：3例，3病変，手術：8例，8病変，総計：27症例，29病変である。

結果：1. 大きさ 20 mm から 30 mm までは積極的な内視鏡的摘除の適応である。2. 30 mm を超えると内視鏡的摘除単独では完全切除は困難で，手術などの追加治療が必要な例が増加する。3. 内視鏡的摘除による治療は再発率が高く嚴重な経過観察が重要である。